

目的 被服の圧迫によって血流障害がおこることが指摘されているので、レーザードップラー血流計を用いて圧迫が皮膚血流量に及ぼす影響をしらべた。

方法 被験者は健康な女子学生四名で、血流の測定には、まずスリッパとシューズ着用時の基礎実験を、次いでマンシエッターによりて上肢と下肢とを圧迫する圧迫実験を、最後にガードル装着時の着用実験と行なった。なお、基礎実験では、28℃、25℃、22℃の三種類の気温時に行ない、着用実験では、ショート・ソフト、ショート・ハード、ロング・ソフト、ロング・ハードの四種類のガードルを用いた。測定器は、上記の血流計の他に、DATA-LOGGERのすみ針、水銀血圧計などを用いた。

結果 基礎実験における皮膚表層の血流量を身体部位別にみると、手指部、次いで前額部が大きく、上腕部、大腿部、下腿部、足指部は小さかった。気温別にみると28℃の 때가最大で、気温が下子につれていづれの部位の血流量も小となった。

圧迫実験では、圧迫が強くなるほど血流量は減じ、その低下の程度は上肢、殊に手指部、手掌部が大きく、下肢では小さかった。

ガードル着用実験では、ソフトガードルとハードガードルとの間に大差はないが、ロングガードルはショートガードルよりも血流量は小であった。